

高等教育活性化シリーズ 220 (通算 538 回)

2012 年 11 月 21 日 (水)

入学前から卒業後まで、学生支援をトータルでマネジメント——

エンrollment・マネジメントのコンセプトと展開Ⅱ

高等教育活性化シリーズ 221 (通算 539 回)

2012 年 11 月 29 日 (木)

学習・生活・社会体験のトータル成果こそ——

アウトカム評価としてのポートフォリオ

入学前から卒業後まで、学生支援をトータルでマネジメント——

エンrollment・マネジメントのコンセプトと展開Ⅱ

～米国・国内の具体的実践事例／EMを大学マネジメントにどうビルトインするのか～

- ※ EMとは何か？／大学マーケティングの考え方を再定義する／IRとのシナジーを創出する
- ※ 国内外のEMの具体的実践事例／米国でのEMのあり方と国内大学のケース・スタディ
- ※ EMを大学マネジメントにビルトインする／組織と大学マーケットの条件／マーケティングの潮流

● 講師 ●

福島 真司 氏 / 山形大学 エンrollment・マネジメント部 教授

2012 年 11 月 21 日 (水) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

学習・生活・社会体験のトータル成果こそ——

アウトカム評価としてのポートフォリオ

～4年(2年)間の「卒業ポートフォリオ」とは～

- ※ ラーニング・アウトカムって何だ？／米国大学のアウトカム戦略シナリオとその事例
教職・産官学共同による学生の総合的仕上がり／評価データの収集と分析～IR機能の強化
- ※ Student Engagement にもとづくアウトカム評価／学生 e-ポートフォリオの普及と事例
「卒業ポートフォリオ」という新たなコンセプト／学習・生活・社会体験のトータル評価
- ※ [懇談交流パーティ] 船戸氏及び土持氏を囲んで

● 講師陣 ●

船戸 高樹 氏 / 九州共立大学 学長特別補佐 共通教育センター 教授
大学経営戦略研究所代表

土持ゲーリー法一 氏 / 帝京大学 高等教育開発センター センター長 教授

2012 年 11 月 29 日 (木) 中央大学駿河台記念館 会議室 (東京・お茶の水)



[参加要領]

- 高等教育活性化シリーズ 220 エンロールメント・マネジメントのコンセプトと展開Ⅱ
 □ 2012年11月21日(水) 13:00~16:50
 剛堂会館(明治薬科大学)会議室(東京・麹町) 千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩4分、またはJR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩10分)
- 高等教育活性化シリーズ 221 アウトカム評価としてのポートフォリオ
 □ 2012年11月29日(木) 13:00~18:30
 中央大学駿河台記念館 会議室(東京・お茶の水) 千代田区神田駿河台3-11-5 TEL 03-3292-3111
 (JR「お茶の水」駅徒歩3分、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅B1出口徒歩3分)


参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
高等教育活性化シリーズ 220 エンロールメント・マネジメントのコンセプトと展開Ⅱ	36,000円 (消費税込)	37,000円(送料、消費税込)
高等教育活性化シリーズ 221 アウトカム評価としてのポートフォリオ	45,000円 (懇談費・税込)	42,000円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。
 受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替: 00110-8-81660
 口座名 (株)地域科学研究会
 (ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

お申込み・お問合せ  地域科学研究会 東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106
 高等教育情報センター TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2012年 月 日

- 高等教育活性化シリーズ 220 エンロールメント・マネジメントのコンセプトと展開Ⅱ
 □ 当日参加 □ メディア参加
- 高等教育活性化シリーズ 221 アウトカム評価としてのポートフォリオ
 □ 当日参加 □ メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____ 連絡部課・担当者名 _____

_____ メールアドレス _____

TEL _____ FAX _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(□郵便振替 □当日払い □銀行振込) 必要書類(□請求書 □見積書)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
<p>13:00 ～ 14:20</p>	<p style="text-align: right;">山形大学 福島 真司</p> <p>1. はじめに</p> <p>(1) これまでの職務経験から(私立短大の経験) バブルからの暗転/コモディティ化する学生募集戦術/競合か、協同か 自称コンサルに騙されてはいけない/ライバルの消滅は追い風にならない A G Bでの経験/戦う集団になってもすぐには回復しない学生募集状況 学生かき集めから満足、成長、就職……この繰り返しと発展のみが王道</p> <p>(2) これまでの職務経験から(私立単科大学の経験) 米国リベラルアーツ大学型大学教育と学生の成長/授業1時間に8時間準備する教育中心教員 満足度が学生募集を成功させるドライバーではない/学生募集マーケットの厳しさに立ち向かう術</p> <p>(3) 現在</p> <p>2. EMとは何か?</p> <p>(1) EMの定義(EMは科学的マーケティング手法) 学生価値の創造とその最大化/組織一体となったプロセス</p> <p>(2) マーケティングとは何か? マーケティングの定義と大学マーケティング/質の向上ではなく、価値の向上へ</p> <p>3. 米国におけるEMのあり方</p> <p>(1) 米国と日本の大学マネジメントの差異</p> <p>(2) 現在の米国でのEM 学生募集と奨学金/リテンションと学生満足度</p> <p>(3) I Rとのシナジー I Rの3つの機能(Institutional Effectiveness、Reporting & Research、Institutional Planning) 今後のI Rに期待されること</p>
<p>14:30 ～ 15:30</p>	<p>4. 山形大学EM部のケース・スタディ</p> <p>(1) 山形大学EM部設置経緯 危機感こそが組織を変える/権限委譲と自由にさせる トップ・ダウンでうまくいく組織とうまくいかない組織</p> <p>(2) 山形大学EM部の挑戦(山形大学型EMのコンセプト「学生を知り抜くこと」)</p> <p>(3) EM組織の沿革と発展(EM部のビジネスシステムの展開と課題) 学生募集/EMのためのI R(調査分析サイクル、調査分析モデル) 大学コミュニティ強化(卒業生コミュニティ強化、保護者との関係性強化等)</p> <p>(4) さらに、学生を知り抜くための挑戦(総合的學生情報データ分析システム) 学生情報を統合したデータ分析システム 財務会計的I Rではなく管理会計的I Rシステム/意志決定をサポートする分析へ システム構築のための学内議論(対立ではない。我々に信頼がないだけだ) 良質なデータ分析をいかに継続するのか/学内での理解促進</p> <p>(5) 今後のI R展開のあり方 全学統合型I Rシステム/プライオリティを定めた意志決定 データ分析から戦略的な計画策定へ</p>
<p>15:40 ～ 16:50</p>	<p>5. どのようにEMを大学マネジメントにビルトインするのか?</p> <p>(1) EMやI Rのネーミングやキャッチフレーズが必要なわけではない。 どれだけ組織一体となって学生や保護者と向き合えるのか? そのためのマネジメントが必要なだけである。</p> <p>(2) 小さいところ、危機感があるところの成長可能性が高い</p> <p>(3) これからのマーケターの条件(マーケティングの潮流) マーケティング2.0(個としての顧客、CRM、LTVの最大化) 顧客満足から顧客体験・感動へ/マーケティング3.0(価値の共有、モチベーション3.0) EMの新しい潮流(EM=C²)</p> <p>6. おわりに(個々の大学のための個々の大学にとってのEM組織の確立へ)</p> <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>

時間	講義項目
13:00) 14:30	<p>□ アウトカム戦略シナリオと IR の展開活用 ～教職・産官学共同による学生の総合力～ 九州共立大学 船戸 高樹</p> <p>1. ラーニング・アウトカムって何だ？ (1) 求められる正しい理解 (2) ラーニング・アウトカムの定義－1 (3) ラーニング・アウトカムの定義－2 (4) 社会からの要請</p> <p>2. 米国の大学におけるラーニング・アウトカム戦略 (1) Mission, Goals, Objectives, Outcomes (2) 基本は、カリキュラム (3) リベラルアーツ系大学の事例 (ピッツァー・カレッジ) (4) 理事会の取り組み</p> <p>3. わが国の大学が直面する課題と展望 (1) 科目順次性を重視したカリキュラムの再構築 (2) 評価のためのデータ収集と分析～IR 機能の強化 (3) 教職員の役割</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
14:40) 16:40	<p>□ Student Engagement にもとづくアウトカム評価～学生ポートフォリオ ～「卒業ポートフォリオ」のコンセプトと実際～ 帝京大学 土持ゲーリー法一</p> <p>1. アウトカム評価 (1) エビデンスにもとづくアウトカム～認証評価 (2) 学修効果を測るルーブリック (3) 学習の「インプット」と「アウトプット」の側面 (4) カナダ・クイーンズ大学医学部の ICE モデル</p> <p>2. 学生ポートフォリオ (1) 中教審答申と学修ポートフォリオ (2) ラーニング・ポートフォリオの特徴 (3) e-ポートフォリオの普及 (4) ユタ州ウエストミンスター・カレッジの e-ポートフォリオの実践</p> <p>3. 卒業ポートフォリオ (1) 新しいコンセプト (2) ユタ州ブリガムヤング大学オナーズ・プログラムの「卒業ポートフォリオ」 (3) 卒業ポートフォリオと卒業論文の違い (4) 学習・生活・社会体験のトータル評価</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
17:00) 18:30	<p>懇談交流パーティ 〈会場：カフェパンセ(明治大学アカデミーコモン1階)〉 ～船戸氏および土持氏を囲んで～</p>